

北海道運輸局の バリアフリーの取組について

高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律（バリアフリー法）に基づく移動等円滑化促進方針及び基本構想（※）の策定に要する経費を支援。

※バリアフリー法の改正により、基本構想に記載する事業メニューの一つとして、従来のハード整備に加え、心のバリアフリーに関する特定事業（教育啓発特定事業）を創設予定。公共交通特定事業（ハード整備）と併せて教育啓発特定事業（ソフト対策）を基本構想に位置づけ、ハード・ソフト一体となったバリアフリー化を推進する市町村を支援。

地域公共交通バリアフリー化調査事業（移動等円滑化促進方針策定事業、基本構想策定事業）

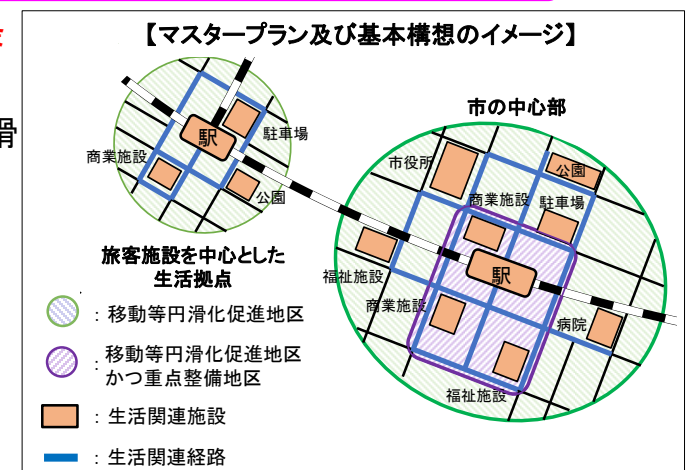
○補助対象者：市町村（ただし、バリアフリー法第24条の4第1項又は第26条第1項に規定する協議会の構成員）

○補助対象経費：地域におけるバリアフリー化の促進を図るための移動等円滑化促進方針又は基本構想（※）の策定に必要な経費

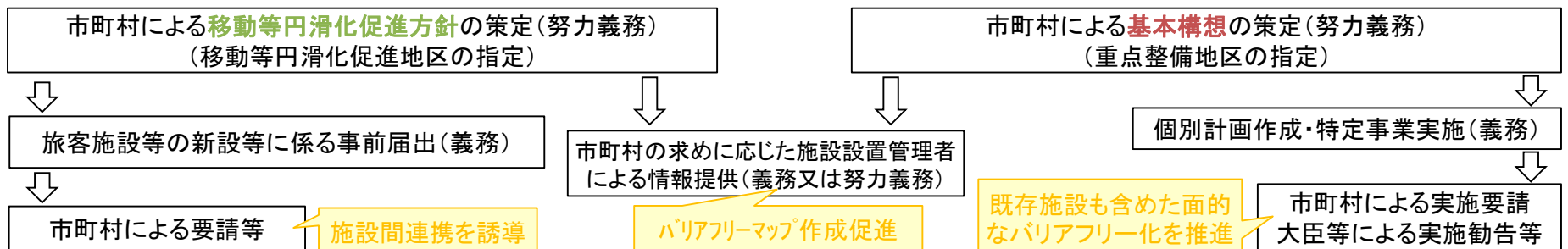
- ・ 協議会開催等の事務費
- ・ 住民・利用者アンケートの実施費用
- ・ 短期間の実証調査のための費用等
- ・ 地域のデータの収集・分析の費用
- ・ 専門家の招聘費用

※基本構想については、公共交通特定事業（ホームドアの設置、ノンステップバスの導入等）に加え、心のバリアフリーに関する教育啓発特定事業（公共交通の利用疑似体験等）を位置づけ、ハード・ソフト一体的なバリアフリー化を目指すものに限る。

○補助率：1/2（上限500万円）



《移動等円滑化促進方針・基本構想制度の概要》



《参考資料》

- ・『移動等円滑化促進方針・バリアフリー基本構想作成に関するガイドライン』 : http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/barrierfree/sosei_barrierfree_tk_000012.html
- ・『交付要綱・実施要領』 : http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/transport/sosei_transport_tk_000041.html

令和元年度 バリアフリー教室開催状況

開催回数：14回

実施市町村：9市（札幌市、千歳市、小樽市、函館市、伊達市、旭川市、帯広市、北見市、釧路市）

延べ参加人数：418人

日程	場所	参加対象者	参加人数	体験内容等
R1.6.20	札幌トヨペット株式会社月寒店	タクシー事業者社員	40名	UDタクシー車両操作 体験：車いす
R1.7.1	小樽フェリーターミナル フェリー「はまなす」船内	小樽市立奥沢小学校5年生 新日本海フェリー株式会社社員	38名	体験：車いす・視覚障がい 講話：道路のバリアフリー
R1.8.26	北海道旅客鉄道株式会社及び 桑園駅	北海道旅客鉄道株式会社 社員	71名	体験：視覚障がい
R1.8.27				座学：接遇ガイドライン 障害者差別解消法
R1.9.2	札幌市立上野幌小学校	札幌市立上野幌小学校5年生 及び保護者	32名	体験：車いす・視覚障がい
R1.9.8	札幌市中央区南1条西3丁目 (さっぽろホコテン会場)	北海道バスフェスティバル 2019来場者	20名	体験：車いす（バリアフリー 対応バス車両）
R1.9.12	北海道旅客鉄道株式会社旭川駅	旭川支社管内の駅社員	15名	体験：視覚障がい
R1.10.9	小樽市立幸小学校	小樽市立幸小学校5年生	32名	講座：手話 講話：ユニバーサルデザイン
R1.10.16	北海道旅客鉄道株式会社函館駅	函館支社管内の駅社員	16名	体験：視覚障がい 座学：接遇ガイドライン 障害者差別解消法
R1.10.24	北海道旅客鉄道株式会社 伊達紋別駅	伊達身体障がい者福祉協会、 伊達市、自治会、専門学校生、 北海道旅客鉄道株式会社	16名	体験：車いす・視覚障がい
R1.10.28	北海道旅客鉄道株式会社釧路駅	釧路支社管内の駅社員	14名	体験：高齢者
R1.11.7	新千歳空港 国際線旅客ターミナルビル	苫小牧市立植苗小学校3・4年生 新千歳空港関係者等	23名	体験：車いす・視覚障がい
R2.2.14	北海道立体育センター講堂・ 北見市立体育センター体育館	北見藤高等学校 2年生	30名	体験：車いす・高齢者 ブラインドテニス
R2.2.19	帯広市立栄小学校	帯広市立栄小学校3年生	71名	体験：車いす デモンストレーション：車いすラグビー

UDタクシー（札幌市）

○開催日 令和元年6月20日

○実施概要

- ・参加者：タクシー事業者社員
- ・障害者差別解消法に関する講話を実施
- ・トヨタ自動車(株)社員によるジャパントクシーの実車を用いた車いすの乗降方法に関する車両操作説明及び車いす疑似・介助体験を行い、「心のバリアフリー」の大切さを学んだ

【参加者の意見】

使い方を練習して、知識を自分のものにしたい



フェリーターミナル（小樽市）

○開催日 令和元年7月1日

○実施概要

- ・参加者：小学生、新日本海フェリー(株)社員
- ・視覚障がい者及び車いすの疑似・介助体験を行い、実生活の中でどのようなお手伝いができるのかを学習
- ・北海道開発局によるミニ講座を実施
- ・フェリー船内にて実施

【参加者の意見】

車いすやアイマスク・白杖を実際に使ったの体験をすることで、想像より難しいということを実感できたと思います

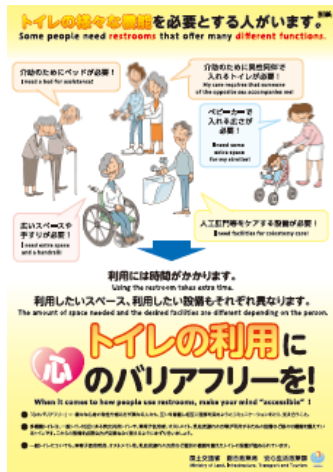


トイレ利用マナーの啓発キャンペーン

- 東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機として、平成29年度から「トイレ利用マナーの啓発キャンペーン」を実施。
- 令和元年度は、11月10日（日）～12月9日（月）をキャンペーン期間として、地方公共団体、公共交通事業者、障害者団体等の協力を得ながらポスターの一斉掲示を行った。

<参考>

ユニバーサルデザイン2020行動計画（平成29年2月関係閣僚会議決定）（抜粋）
 「多機能トイレをはじめとするトイレの利用に係るマナー改善に向けて、公共交通事業者や障害者団体等と連携しながら、利用マナーの啓発を行うポスターやチラシを作成し配布するなどのキャンペーンを実施する。」



ベビーカー利用に関するキャンペーン

- ベビーカー使用者及び周囲の方の相互の理解を深めるため継続的な普及・啓発活動として、平成26年度から例年5月にキャンペーンを実施。
- 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、7月1日（水）～7月31日（金）をキャンペーン期間として、地方公共団体、公共交通事業者等の協力を得ながらポスターの一斉掲示を行った。



共生社会ホストタウンについて

共生社会ホストタウンは、パラリンピアンを受入れを契機に、各地における共生社会の実現に向けた取組を加速し、2020年以降につなげていくもの（2017年11月創設）

○共生社会の実現に向けた取組

障害のある海外の選手たちの受入れを契機に、ユニバーサルデザインの街づくり及び心のバリアフリーに向けた、自治体ならではの特色ある総合的な取組を実施。

大会のレガシーにもつなげていく。



車いす対応シャワー UDツーリズムの検証 手話通訳サービス 点字メニュー

○パラリンピアンとの交流

東京2020大会直後の交流も含め、幅広い形でのパラリンピアンとの交流を通じ、パラリンピックに向けた機運を醸成するとともに、住民がパラアスリートたちと直に接することで、住民の意識を変えていく。



○北海道における共生社会ホストタウンの登録状況（令和2年5月29日時点）

札幌市、釧路市、滝川市、登別市（4市）

（参考）ホストタウン・・・函館市、網走市、士別市、名寄市、根室市、東川町（5市1町）